

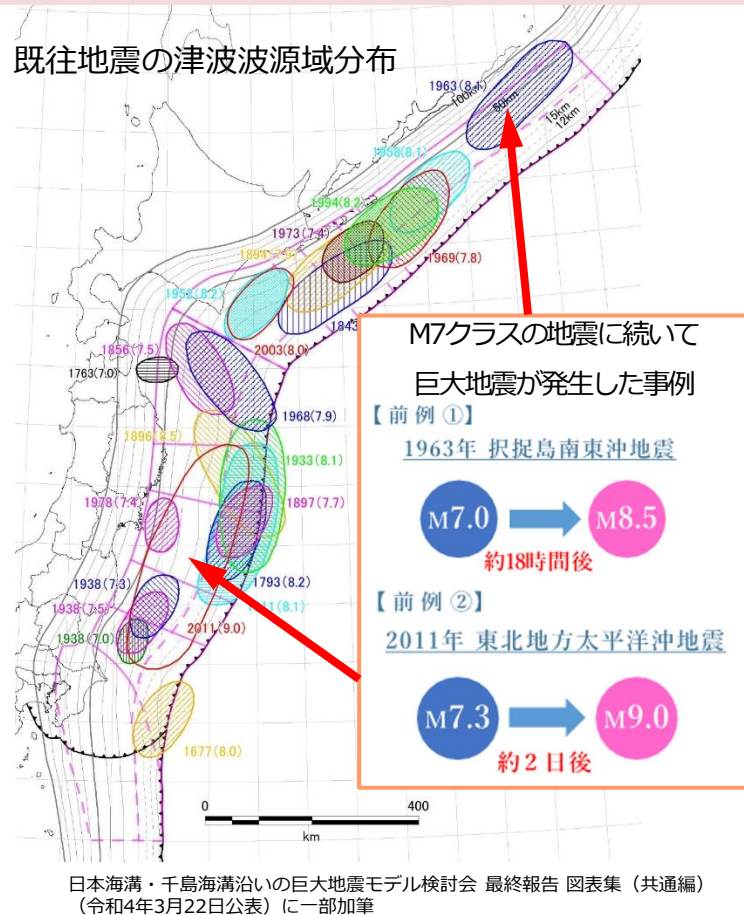
2025年度（令和7年度）釧路市防災会議

北海道・三陸沖後発地震注意情報について

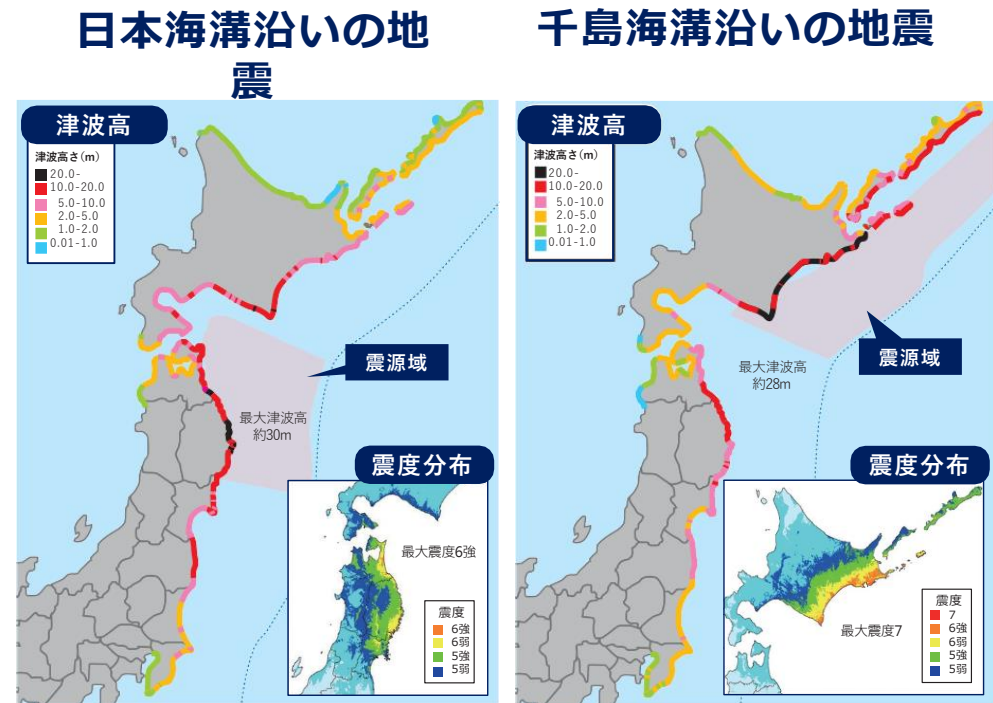
釧路地方気象台

- 日本海溝・千島海溝沿いの領域では、過去にも**大きな地震、津波が繰り返し発生**。
- 最大クラスの津波（東日本大震災並み）は300~400年間隔で発生。今回は17世紀に発生しており、経過時間から考えて、最大クラスの津波を伴う**次の巨大地震・大津波が切迫**。
- 巨大地震・大津波が発生すると、積雪寒冷地特有の課題もあり、**広範囲で甚大な被害の恐れ**。

大きな地震・津波が繰り返し発生



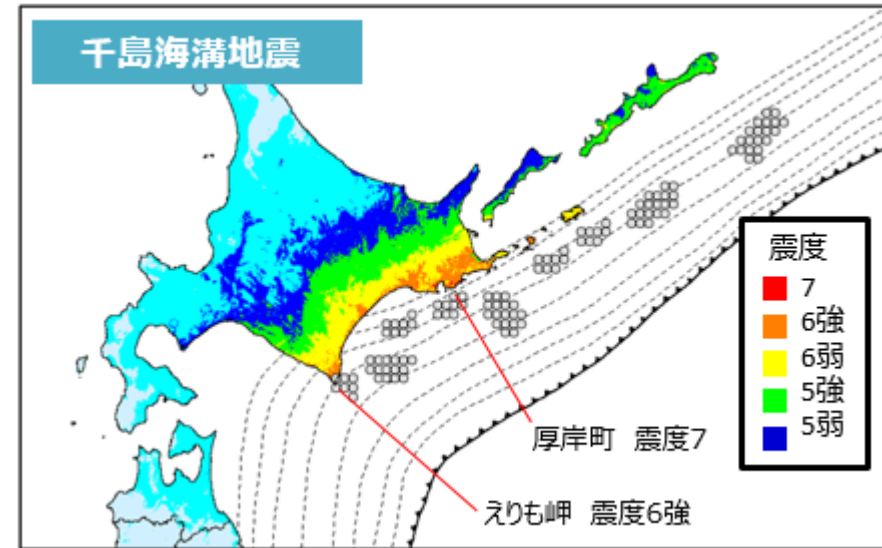
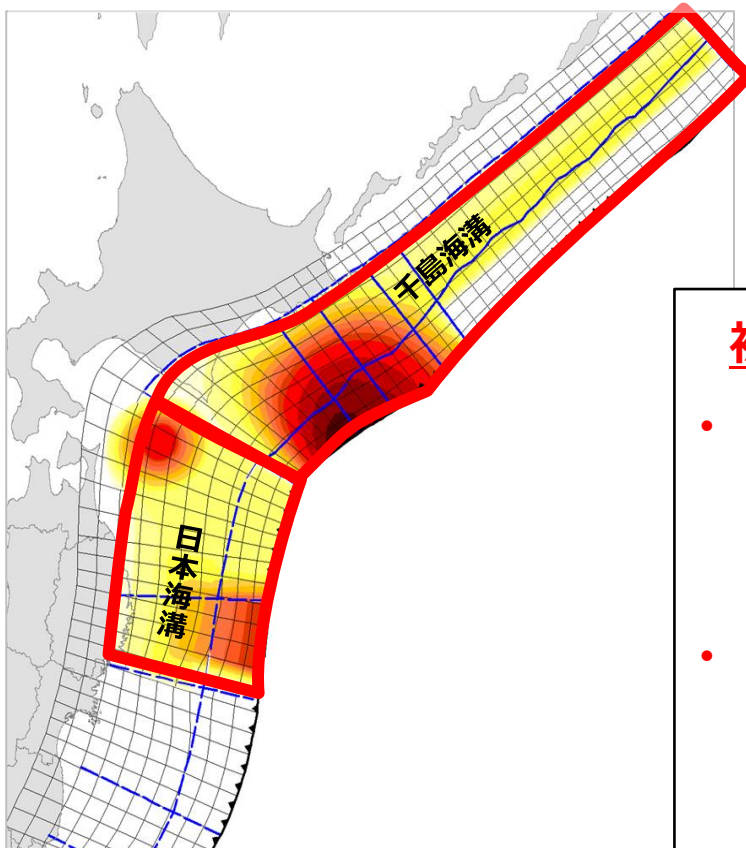
最大クラスの地震で想定される津波と震度



内閣府の「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデル検討会」において、**千島海溝でMw9.3**、日本海溝でMw9.1の最大クラスの地震・津波想定を公表しました。

- 最大震度7 **釧路市 震度6強**
- 最大津波高 30m **釧路市 20メートル超**

○ 地震の想定震源域

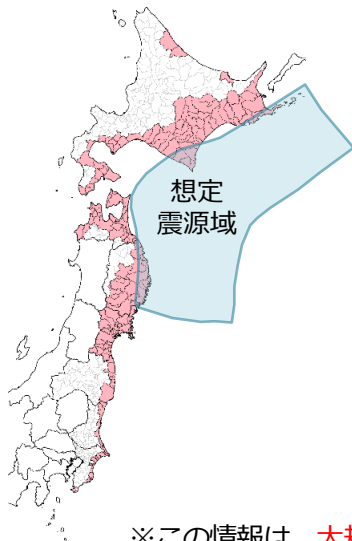


被害想定

- 死者数や低体温症要対処者数などの人的被害、全壊棟数などの建物被害、生産・サービスの低下による影響などの経済的被害を推計
- 千島海溝沿いの巨大地震（千島海溝モデル）では、最大約10万人の死者が発生し、低体温症要対処者数は約2万2千人に及ぶと推計

- 日本海溝・千島海溝沿いで続いて発生するかもしれない「**後発地震**」に注意を促し、「一人でも多くの人命を救う」ため、最初の地震発生後に「**北海道・三陸沖後発地震注意情報**」を発信。
- 情報が発信されたら、**地震への備えの再確認**と、次の地震発生時に**すぐ避難できる準備**を

北海道・三陸沖後発地震注意情報



■ 発信条件

想定震源域でMw7.0以上の地震が発生
※その周辺でも地震の規模によっては発信

■ 発信方法

気象庁・内閣府の合同記者会見

■ 防災対応をよびかける期間

地震発生から**1週間**

■ 発信の頻度（想定）

概ね**2年に1回程度**

■ 防災対応をとるべきエリア

津波高3m以上または震度6弱以上が
想定される地域（左図の着色された市町村）

※この情報は、大規模地震の発生可能性が平時よりも相対的に高まっていることを伝える情報であり、情報が発信された場合でも後発地震が発生しない可能性が高いことに留意。

とるべき防災対応

巨大地震は突発的に発生することの方が多く
日頃からの備えが重要！

北海道・三陸沖 後発地震注意情報

**M7.0以上の
地震発生後に発信**

社会経済活動は継続したうえで
**地震への備えの再確認
発災時にすぐ避難できる準備**



【気象庁】「北海道・三陸沖後発地震注意情報」の発表基準と情報発表の流れ



【内閣府】北海道・三陸沖後発地震注意情報の解説ページ